消化器検診 Newsletter

No.108

［日本消化器がん検診学会関東甲信越支部機関紙］

発　行　所：日本消化器がん検診学会
関東甲信越支部
〒183-0042 東京都府中市武蔵台2-9-2
東京都がん検診センター
消化器内科
TEL／042-321-0711
E-mail:kantou@jsgcs-kanto.jp

目　次

第78回日本消化器がん検診学会関東甲信越支部地方会

会長挨拶……2

第78回、第79回日本消化器がん検診学会関東甲信越支部地方会

会告……3

日本消化器がん検診学会関東甲信越支部

超音波研修委員会

平成30年度超音波研修委員会セミナーのご案内とプログラム……4

施設紹介……5

ニュースレターバックナンバーの電子化を記念して……6

編集後記　　山口和也……8

第78回日本消化器がん検診学会関東甲信越支部地方会

会　長　挨　拶

第78回日本消化器がん検診学会関東甲信越支部地方会
会長　小　林　　望
（栃木県立がんセンター　消化器内科）

このたび、第78回日本消化器がん検診学会関東甲信越支部地方会を、2018年9月2日（日）、栃木県総合文化センターにて開催させていただくこととなりました。伝統ある本学会の会長を拝命し、大変光栄に存じます。本学会は、医師以外にも、放射線技師、臨床検査技師、保健師など、消化器がん検診に関わる多職種の会員から成り立っておりますが、全ての会員にとって実りある学会となりますよう、鋭意準備を進めさせて頂いております。

今回はテーマを「消化器がん検診の裾野を広げる」といたしました。X線による胃集団検診、免疫法便潜血検査による大腸がん検診は死亡率減少効果が科学的に認められた検診法であり一定の成果をあげてきましたが、その受診率はがん対策推進基本計画で目標とされた水準には達しておりません。胃内視鏡検診の導入により胃がん死亡率の改善が期待されてはおりますが、実施に向けてはまだまだ問題も多く、十分に普及しているとは言えない状況です。今後さらに効果的な検診体制を実現するためには受診率の向上が不可欠であり、未受診者の把握と受診勧奨に加え、受診者にとって敷居の低い検診方法の普及が重要と考えます。本学会では、教育講演、シンポジウムにおいてこのテーマを取り上げ、検診に関わる多職種の皆様のそれぞれの立場からご意見を頂き、今後の受診率向上につながるような議論ができればと考えております。

会場となる宇都宮市は、「餃子の街」、「カクテルの街」などとも呼ばれておりますが、学会前日の土曜日にお越し頂いて街を散策して頂くのも一興かと思います。また、少し足を伸ばして頂くと、世界遺産の日光東照宮や、鬼怒川、那須塩原をはじめとする人気の温泉場をご堪能頂くことも出来るかと思います。皆様に栃木県の魅力を知って頂く良い機会でもありますので、一人でも多くの方のご参加を、心よりお待ち致しております。

日本消化器がん検診学会関東甲信越支部地方会

開　催　の　ご　案　内

第78回地方会

会　期：平成30年９月２日(日)
テーマ：「消化器がん検診の裾野を広げる」
会　場：栃木県総合文化センター
　　栃木県宇都宮市本町１- ８
会　長：小林望先生
　　栃木県立がんセンター

第79回地方会

会　期：平成31年９月29日(日)
会　場：前橋テルサ
　　群馬県前橋市千代田町2-5-1
会　長：萩原廣明先生
　　萩原内科医院

日本消化器がん検診学会関東甲信越支部

平成30年度　超音波セミナー

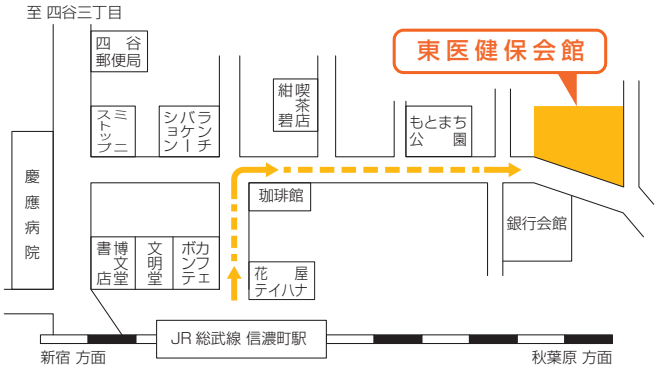
会期：平成30年４月21日（土）

午後１時～４時30分（受付開始12時30分）

会　場：東医健保会館 大ホール　東京都新宿区南元町４番地

会　費：2,000円（非会員3,000円）※事前の登録は必要ありません。

※このセミナーは、社団法人日本超音波医学会認定「超音波検査士」資格更新指定の対象になっており、出席５単位が付与されます。



プログラム

テーマ『Bモードの見方が変わる検査の基礎』

13:00-13:05	開会の辞	
13:05-14:05	症例検討	演者：若杉　聡（千葉西総合病院） 読影：伊藤　正範（新宿健診プラザ） 丸山　勝（東京逓信病院） 金久保　雄樹（天王台消化器病院）
14:05-14:15	休憩	
14:15-15:05	教育講演1	学会で聞いて困らない造影超音波、基礎の基礎 講師：松本　直樹（日本大学医学部消化器肝臓内科） 司会：永井　悟（湘南藤沢徳洲会病院）
15:05-15:15	休憩	
15:15-16:05	教育講演2	学会で聞いて困らないCT、MRI検査、基礎の基礎 講師：関口　隆三（東邦大学大橋病院） 司会：岩下　和広（飯田市立病院）
16:05	閉会の辞	

問合せ先：関東中央病院画像診断科　E-mail: kensa.gazou@kanto-ctr-hsp.com

ホームページURL：http://www.mskanus.org/

公益財団法人　東京都保健医療公社　東京都がん検診センター

【沿　革】

昭和47年８月	東京都がん検診センター（お茶の水）が設立。
平成２年７月	多摩がん検診センター（府中市）が事業開始。
平成４年10月	(財)東京都健康推進財団が設立され、東京都がん検診センターおよび多摩がん検診センターが当財団に引き継がれる。
平成15年３月	東京都がん検診センター（お茶の水）事業終了。
平成15年４月	多摩がん検診センターは東京都がん検診センターと統合され、東京都多摩がん検診センターと名称変更。(財)東京都健康推進財団から(財)東京都保健医療公社に引き継がれる。
平成22年４月	東京都がん検診センターに名称変更。
平成24年４月	(財)東京都保健医療公社が公益財団法人へ移行される。

【事業概要】

当センターは、都立多摩総合医療センター（789床)、都立多摩総合小児医療センター(550床)、都立神経病院(304床)、都立療育センター(250床）などとともに府中メディカルプラザにあり、おもに住民検診を担当し、消化器科、呼吸器科、婦人科、乳腺科、放射線科、検査科によるがん検診診療や東京都のがん検診精度管理事業およびがん検診啓蒙活動を行っている。消化器科は一次検診から二次精密検査、一般外来、ドック、術前精密検査を行い、内視鏡治療は当センタースタッフが担当し、外科手術はおもに都立多摩総合医療センター外科に紹介しているが、公社病院や都立病院、他の専門施設とも連携している。発見から精密検査、内視鏡治療や外科治療、その後のフォローアップまでトータルサポートを行う施設である。

【平成26年度診療実績】

住民検診　22,446件
大腸がん検診　10,562件
上部消化管内視鏡検査　6,109件
大腸内視鏡検査　5,968件

【発　見　癌】

食道癌　34件（表在癌　23件）
胃癌　191件（早期　141件）
大腸癌　454件（早期　328件）

【内視鏡治療】

大腸内視鏡治療（日帰り）　1,289件
入院内視鏡治療　食道　19件　胃　100件　大腸　92件

【連　絡　先】

〒183-0042　東京都府中市武蔵台２－９－２
Tel　042-327-0201　Fax　042-327-0298
URL　http://www.tokyo-cdc.jp

胃集検通信No1を読んで

山口　和也

この度、日本消化器がん検診学会関東甲信越支部機関誌ニュースレターおよび、前身の胃集検通信のバックナンバーが電子化され、関東甲信越支部のホームページから誰もが閲覧できるようになった。記念すべき胃集検通信創刊号を読んで現在と未来へ生かすことがあれば、関東甲信越支部の皆様へお伝えすることとした。

胃集検通信No1は昭和57年（1982年）7月20日に発行された。老人保健法の成立がほぼ決まったタイミングであった。集団検診を行う機関の間での精度的格差が生じてきており、この格差を是正するためには、正しい精度管理を行い、胃集検実施機関相互の情報を交換することの重要性が述べられている。もう一点、恒常的ながん情報システムの確立の必要性が述べられている。当時の日本胃集団検診学会関東甲信越地方会から、現在の日本消化器がん検診学会関東甲信越支部に至るまでの会の大きな目的である。ちなみに、日本消化器がん検診学会の目的は定款第四条に「この法人は、消化器がん検診に関する研究者の研究発表、知識の交換及び関連学協会との連絡、提携の場となり、消化器がん検診に関する学術の進歩と正しい検診方法の普及を図り、もって学術、分化の発展に寄与し、かつ広く人類の福祉に貢献することを目的とする。」とある。消化器がん検診学会は、医師だけの集まりでは無く、診療放射線技師、看護師、保健師、臨床検査技師、超音波検査士と消化器がん検診に携わる多くの者達が集う会である。現在胃内視鏡検診が急速に広まろうとしている。医師の集まり、看護師の集まり、保健師の勉強会、研修会等の集まりが開かれている。他職種が集う場は、この消化器がん検診学会である。集検通信No1の時に近い境遇に、胃内視鏡検診が現在おかれているのではないか。公費が関わっている事業であり、関係する皆様が意志疎通をしっかりしないといけない。

胃レントゲン検査の読影はダブルチェックが現在標準であるが、二名の医師のうち少なくとも一人は消化器がん検診学会の認定医であるという厚生労働省のチェックリストを満たすことですら難しい医療機関がある現状となっている。学会に入会していなくても、検診の読影や診療は行う事が出来ることも一つの理由であろう。学会の価値を高めるために、もっと多くの方に入会してもらいたいといった意見も耳にするが、必要性が無ければ入会していただくことは難しい。

対策型検診のための内視鏡検診マニュアルを作成したのは、当学会であるが、実際に内視鏡検

診を行う医師の当学会への入会率はまだまだ低い。入会者、学会参加者だけが良い精度の検査を行うのではなく、未入会の医師の精度をいかに上げるかを考えるべきと考える。会員の医師、技師の皆様が各地域の指導者になっていただき、講習会を開いていただくなどして、各地域の検診精度を高めていただきたい。

学会の内部でやることと、学会の外部へ働きかけることとそれぞれやるべき事があり、消化器がん検診学会として独自性を生かし世のため人のために尽くしたい。

(1)　1　57.7.20

胃集検通信　NO.1

胃集検新時代へ

老人保健法が契機

法に基く地域集検

職域集検はどうなるか

全国組織化が急務

参加者が強い要望

機関紙刊行に寄せて

胃集検と情報

国立がんセンター病院長　市川平三郎

前処置から画像診断支援まで

人々のすこやかな毎日を願い、より適確でより安心な診断ができる信頼ある製品づくりを。

薬価基準収載

処方箋医薬品　注意-医師等の処方箋により使用すること

【硫酸バリウム製剤】

大腸CT用経口造影剤
コロンフォート® 内用懸濁液25%　新発売 2016年3月承認、5月薬価基準収載

上部消化管X線造影剤
バリテスター®A240散　バリトゲン®SHD
硫酸バリウム散 99.5%「FSK」

注腸用X線造影剤
エネマスター®注腸散

消化管X線造影剤
バリトゲン®HD　バリトゲン®-デラックス
バリトゲン®　ウムブラ®MD

【炭酸水素ナトリウム・酒石酸配合剤】

X線診断二重造影用発泡剤
バリエース®発泡顆粒

胃内有泡性粘液除去剤
バリトゲン®消泡内用液2%
（ジメチコン内用液）

緩下剤
ファースルー®錠2.5mg
（ピコスルファートナトリウム錠）

※効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等詳細は、添付文書をご参照下さい。

取扱い商品

大腸・CT用検査食 FG-two☆
エスビー食品と共同開発。
味とボリュームにこだわった、簡単調理の検査食。

清涼飲料水 PROJECT F.
難消化性デキストリン（食物繊維として）入り。

医療用潤滑剤 FG Jelly
消臭成分と抗菌成分をダブル配合。
刺激性の少ない透明タイプの水溶性潤滑ゼリー。

遠隔画像診断支援サービス

G.I.Lab株式会社
〒101-0052　東京都千代田区神田小川町2-1
KIMURA BUILDING 7F　TEL：03-5283-0981
検診に特化。
胃X線を始め、胸部X線、マンモグラフィー、CT・MRI、大腸CTなど、多様な画像をお取り扱いします。

伏見製薬株式会社
●資料請求先　営業企画部／香川県丸亀市中津町1676　TEL 0877-22-7284　FAX 0877-22-6284
仙台営業所／TEL 022-295-5667　東京営業所／TEL 03-5328-7801　名古屋営業所／TEL 052-732-8555
大阪営業所／TEL 06-6160-2431　中四国営業所／TEL 082-509-2431　福岡営業所／TEL 092-413-4107
金沢オフィス／TEL 076-255-0282　http://www.fushimi.co.jp

編集後記

今号は最初に、第78回地方会大会長の小林先生のご挨拶を掲載させていただきました。「受診率の向上が不可欠」とおっしゃっています。全く同感です。千葉県のホームページでは、千葉県内の市町村の検診受診率が公開されています。平成26年度の胃がん検診の受診率は26.4％から3.8％であり、市町村により大分差があります。平成26年度の大腸がん検診の受診率も51.6％から8.0％と大分差があります。集団検診を受けずに人間ドックを受診する方がこの差を埋める程多数いるとは到底思えません。受診しないでそのままになっていると推測します。がん対策として何とかしないといけないと思っています。受診率が低い原因はいろいろあるとは思いますが、検診施設、医師、診療放射線技師、保健師、行政の皆さんで取り組まないといけない問題です。検診を受けましょうという内容の講演会を行ったりもしましたが、検診受診率は伸び悩んでいました。共同研究の一環で進みはじめたものは、別の機会に報告させていただこうと思います。

第78回地方会開催のご案内を掲載いたしました。平成30年度超音波研修委員会セミナーのご案内も掲載させていただきました。主催者側の立場で、世話人会に参加させていただいています。継続していくことの困難はありますが、世話人の皆様方で力を合わせてなんとか継続できています。

胃内視鏡検診がいよいよ広まりつつあります。千葉県では千葉市、船橋市等で進んでいます。市川市、松戸市、柏市などでも次年度開始へ向けて研修会を開催し、準備を進めています。安全で精度の高い内視鏡検査を広めていくことは、当学会の行うべき仕事でもあると思います。偶発症をできるだけ起こさないように努める事と、内視鏡洗浄をしっかりと行う事など、消化器内視鏡技師の皆さんとも一緒に取り組んでいかねばなりません。当支部の内視鏡研修委員会にも続々と仲間が増えているところです。

ただ、内視鏡検診が広まっていくとはいっても、胃X線検査受診者がいなくなることはないでしょう。内視鏡検診を行う体制作りの面では、都市部に比べ郡部は遅れていると感じます。集団検診型の胃X線検査では、都市部でも郡部でも、デジタル車に等しく移行し、診療放射線技師、読影医も差はありません。受診勧奨や自己負担金額は行政の体力の違いにより、差がどうしてもあると思います。

内視鏡検査に比較すれば精度管理しやすい胃X線検査に対しても、安全で精度の高い検査である事が求められます。超高齢化社会となり、体位変換なども問題が出て来ることが多くなると思います。利益、不利益のバランスをみんなで考えましょう。

施設紹介を小田先生に、東京都がん検診センターの紹介をお願いいたしました。大腸内視鏡検査を多く行っていらっしゃいますし、大腸癌の発見が特に多く、時代が変わってきたと思いました。

関東甲信越支部機関誌として108号まで来ました。この度、前身の集検通信創刊号からのバックナンバーをPDF化し、ホームページ上でどなた様も閲覧できるようになりました。先輩方の熱い思いがつまった文章を拝見しました。電子化を記念してというタイトルで文章を書かせていただきました。

皆様、ご苦労が多いと思います。皆様のお仕事は、国民のためになることです。一緒に頑張りましょう。

公益財団法人ちば県民保健予防財団　総合健診センター
山口　和也

■編集委員会■

編集委員長　山口　和也
編集委員　小田　丈二　岡田　義和　神宮字　広明　山本　美穂
石井　崇雄　木村　友子　渡邉　綾子

(非売品)